



•Tackle Guide
ハリスは3~4号を10メートルが基準。乗っ込みシーズンは大型に備えて4号がおすすめ。船が空いていれば、ハリスの長さを12メートルにのばすと警戒心の強いマダイ攻略の一助となる。

「前でも食ってるよ」船長がマイクで知らせてくれたので駆け付けると、すでに松尾さんが800グラム級のマダイを取り込んでいた。松尾さんは次の投入でも同

るのだがマダイが口を使ってくれないのだ。この日はまるで初夏を思わせるような晴天で、無風で鏡のような海面。潮回りは小潮で流れも緩慢、俗にいう「ナギ倒れ」状態だ。その後、8時過ぎに右トモ3番の福島さんが800グラム級のマダイを取り込み、終了間際に右ミヨシ3番の田村さんが700グラム級のマダイを釣ったところで沖揚がりとなった。この日は谷間に当たって思わぬ不振に見舞われたが、久里浜沖に向かった船は多少の釣果が上がったらしく、いや

はやマダイは実に気難しい魚だと痛感した。はやマダイは実に気難しい魚だと痛感した。

出足から絶好調!

4月15日、私は再び大松丸の船上にいた。この日は打って変わっての曇天、台風1号の接近に伴う強い北風が吹いていた。9名を乗せた本船が剣崎沖に到着し、「水深48メートル。タナは28メートルです」の合図で開始となった。すると、「食ったよ!」声のするほうを見ると左トモの松館さんがバトルの最中、グイグイ巻き上げ1.5キロのマダイを釣り上げた。

▼ナギ倒れの雪辱をシケ前の荒食いで果たした松尾さん、おめでとう!



級を釣り上げ、「次は大型を釣りますよ」と意気揚々。実は氏は前回の取材でも同船しており、イサキ1尾で終わった雪辱を果たすため今日も乗り込んだとのこと。続けて右胴の間の高橋さんが1キロ級のマダイを釣り上げると、再び松尾さんが3枚目となる1キロ級を上げた。そのマダイを振り返ると畠山さんがヤリトリの真っ最中。取り込みの写真を撮ろうと構えていると、海面に浮かび上がったシルエットは赤ではなく黒。畠山さんが上げたのは1.2キロのクロマダイだ。開始50分で船中8枚のマダイが上がり滑り出しは絶好調しかし、それからはポツリ

ポツリと1キロ前後のマダイが顔を出すような展開に。ここで私も竿を出す。指示ダナでしばらく待ってもアタリがなく、3メートル巻き上げ、そこから静かに落とし込んでいくと、突然ズドンと竿先が海面に突き刺さった。合わせを入れるとギユギユーンとドラグが滑る。ここで無理は禁物。竿を立て、慎重にヤリトリしてタモに無事収まったのは2.2キロのマダイ。その後、私は置き竿で1.2キロを追加。さらに、「タナを32メートルから34メートルに下げてください」とのアナウンスで糸を送っていくと、再びズドンときて2.4キロをゲット。とどめに置き竿で600グラム級を追加したところで沖揚が



▲剣崎沖のコマセマダイは5月に乗っ込みのピークを迎えると読む▼800グラム前後がアブレーション



2隻出しの大盛況
当日の大松丸のマダイ船は乗合船と仕立船の2隻出しとなっており、私たち乗合組は鈴木裕喜船長が操舵する船に乗り込み準備を始める。6時少し前、19名を乗せて出船。ナギの海を滑るように入込みが始まったとは言えない状態だった。

よもやのナギ倒れから一転
シケ前の荒食いでマダイ連発

●三浦半島剣崎松輪港発→剣崎沖 本誌ABC(東京)鈴木良和 Yoshikazu Suzuki

この場合、サミングしながら指示ダナプラス5メートルまで下ろし、ハリスが潮になじむまで5~10秒くらい待った後、コマセを振りながら指示ダナまで誘い上げてタナ取り完了。あとはマダイからのラブコールを待てばよいのだが、必ず船長の指示ダナを守り、ピシ(コマセカゴ)をタナより下げてはならない。マダイは産卵に備えて神経質になってるので、視界にピシが入ると警戒して散ってしまうのだ。誘いを入れる場合は、ゆっくり3メートルほど誘い上げ、続いてジリジリとタナまで誘い落とすのが一般的だ。この時期の皆さんの目的は、マダイを釣って自己レコードを更新すること、そしてもう一つの楽しみが白子だろう。クリーミーなマダイの白子の味はフグにも負けないと食通にも評判。新鮮な白子を食

進んでポイントの剣崎沖に到着すると、「水深は50メートル。タナは30メートル。海面からのタナ取りとなりますが、リールのカウンターではなく道糸のマーカーで計ってください」と鈴木船長から開始の合図が出された。

知得! マダイの白子焼き
白子はシンプルに焼くのがおすすめ。白子を手洗いで、キッチンペーパーで水気をふき取り、アルミホイルの上に乗せて塩を振り、10分ほど寝かせたらグリルの強火で焼くだけ。ちなみに真子は煮つけが最高だ。
▲白子か真子か、帰宅後の楽しみ

せるのは釣り人の特権だ。モーニングサービスを期待したもの、なかなかマダイからのアタリは訪れない。開始から30分後、最初に竿を曲げたのは右トモ2番の小峰さつきさん。よし、次は俺の番だと皆さん気分が入ったものの、後が続かない。魚探には反応が出

▼1枚上げるたびにハリスをチェックし、傷があれば交換しよう



りとなった。トップは5枚を釣った松尾さん。ほか3枚が3名で残念ながら0が1名出てしまった。剣崎沖の乗っ込みは例年ゴールデンウィークのころから梅雨前がトップシーズン。ぜひとも大型のマダイを狙いに出かけていただきたい。

●船宿information
三浦半島剣崎松輪港
大松丸
☎046-886-1244
(詳細は巻末の情報欄参照)
▶料金=マダイ乗合一人9500円(エサ別)
▶備考=予約乗合、5時半出船。ほかヤリイカ&スルメイカへも出船
鈴木 裕喜船長

●すずき よしかず「嫌な上司に出すお茶には雑巾の搾り汁を入れてたりして」と言ったら、否定されたものの目が笑っていなかった。まさかの事務員あるある?